

地理

名古屋大学 (前期) 1 / 4

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題 I

問 1 a : ニューオーリンズ b : カイロ
c : ダッカ d : シャンハイ

問 2

アは鳥趾状三角州、イは円弧状三角州、エはカプス状三角州で、三角州の形態は、河川が運搬する土砂の量、沿岸の波や潮の流れの強さによって差異が生じる。相対的に土砂の量はアで多くてエで少なく、波や潮の流れはエで強くアで弱い。

問 3

イのナイル川河口付近は砂漠気候であるが、外来河川のナイル川沿いでは河川水を灌漑に利用した耕地が広がり、三角州では小麦や米、ナツメヤシ、綿花などを栽培するオアシス農業が行われている。一方、周辺では砂漠が広がっている。

問 4

アとウの三角州付近では、熱帯低気圧が襲来することが多く、アのミシシッピ川の河口域ではハリケーン、ウのガンジス川の河口域ではサイクロンが上陸し、洪水以外にも暴風雨や高潮による災害を受けやすい。

問 5

資源名 : 石油

アのミシシッピ川河口の沿岸域では、石油が採取されているが、メキシコ湾の海底油田の掘削パイプが折れて原油流出事故が発生したことがある。これによって、沿岸域では原油が漂着し、生態系が破壊される環境問題が生じた。

地理

名古屋大学 (前期) 2 / 4

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題 II

問 1

- (1) ア : B ガーナ イ : A ブラジル
ウ : D インド エ : C ケニア

(2)

特定の一次産品の輸出に国の経済を依存しているため、生産量や国際価格の変動によって不安定な経済となりやすい。そのため、栽培作物の多様化や工業化など産業構造の多角化が求められている。

問 2

- (1) カ : アメリカ合衆国 キ : フランス
ク : 中国 ケ : ナイジェリア

(2)

主食である米の消費量が多かったが、戦後に食の洋風化が進み、小麦の消費量が増加し、米の消費量は低迷した。また、肉類の消費量が増加したため、飼料作物であるトウモロコシの消費量が増え、穀物消費量は食用よりも飼料用が多くなった。

問 3

- (1) セ

(2)

ビールは大麦やホップを原料とするが、製品重量の大部分をしめるのは水であり、水は比較的どこでも得やすいことから、製品の輸送費を最小化するために、需要の多い大都市周辺に工場が立地する市場指向型となる。

地理

名古屋大学 (前期) 3 / 4

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題 III

問 1

- (1) フランス イタリア ベルギー オランダ ルクセンブルク
- (2) E C S C
- (3) 当時の重要な資源や工業製品であった石炭と鉄鋼を共同利用するため。

問 2

- (1) ア：ベネズエラ イ：イラン ウ：イラク
- (2) サウジアラビア クウェート
- (3) C：スペイン語 D：ペルシャ語 E：アラビア語
- (4) 資源ナショナリズムを背景として、探査から採掘、流通までを支配する国際石油資本に対抗するため。

問 3

- (1) カ：マレーシア キ：シンガポール ク：タイ
ケ：インドネシア コ：フィリピン
- (2) F：イスラーム G：キリスト教 H：ヒンドゥー教
I：仏教
- (3) 東西冷戦下において地域の社会主義勢力に対抗する目的として、資本主義国で結成された。

問 4

- (1) N A F T A
- (2) 関税を段階的に撤廃することや、他国への投資を自由化すること、知的財産権を保護すること。

地理

名古屋大学 (前期) 4 / 4

文学部、情報学部 (人間・社会情報学科)

問題 IV

問 1 A : グリーンランド B : ジャワ島
 C : シンガポール D : モルディブ

問 2 デンマーク

問 3

アネクメーネとは、人類の居住に適さない非居住地域のことで、グリーンランドでは内陸部が最暖月平均気温 0℃未満の氷雪気候で、氷床に厚く覆われていて、農業などの経済活動が困難なため。

問 4 プレート

問 5

首都のジャカルタでは、就業機会を求めて周辺農村から流入する人々が多く、人口の急増にインフラ整備が追いつかず、貧困層の居住するスラムが拡大している。また、自動車の増加による交通渋滞や、大気汚染、水質汚濁などの問題も発生している。

問 6

シンガポールは中国系の住民が大部分を占めるが、隣国のマレーシアはマレー系、中国系、インド系の住民からなる複合民族国家で、経済面で優位に立つ中国系住民に対して多数派のマレー系優遇政策が実施されたため、それに反発してシンガポールが分離独立した。

問 7

サンゴ礁が美しい風光明媚な環礁の島々からなるが、地球温暖化による海水温の上昇でサンゴが白化現象の発生で死滅したり、海面上昇による海岸侵食が激しく、水没したりすることが危惧されている。